

## 「女性の骨盤底と下部尿路機能障害」

三井記念病院産婦人科 医長 中田 真木

広く知られていないが、40歳以降の成人女性には、骨盤底と膀胱尿道の不具合を抱えている人が1/3くらいはいると見積られている。人類は比較的身体の大きな動物で、縦の姿勢で生活し骨盤底には重力負荷が加わり続ける。妊娠期間が長く、妊娠末期には膀胱は子宮に圧迫されて変形する。生まれる子供の頭が大きいことも、リスク要因である。妊娠出産や子宮筋腫などの婦人科疾患により、骨盤底と膀胱尿道の機能は低下する傾向がある。人類の寿命は長く、後年になると加齢による骨盤底と膀胱尿道の不具合に悩まされることも増えてくる。

膀胱尿道の不具合には、排尿しようとしていないのに尿がもれてしまう『蓄尿障害』、尿を出したいときにうまく出ない『排出(排尿)障害』、さまざまな原因で生じる『刺激症状』や『違和感』などがある。トイレが近い、などいわゆる『頻尿』の正体は、尿もれの懸念、刺激症状、排出障害、水分の取り過ぎなど、マルチな要因から派生する二次的なトラブルである。『頻尿』の訴えに対しては、複数の原因を想像しつつフレキシブルに対応するのがよい。

膀胱尿道の不具合は友人や家族には話しにくく、情報不足によりトラブル対応に余計な時間がかかる。その間、当事者は就労を含めさまざまな局面で不自由を味わっている。社会全体では、下部尿路機能障害による女性のQOL低下は甚大なものになっている。